Iiyama Tabi-Tabi

VOL.8 飯山旅々。

選べるいいやま旅のプラン

特集 寺町の伝統文化

あなたの好みの旅、みつけませんか

―北陸新幹線で信州、飯山へ―

一般社団法人 信州いいやま観光局　〒389-2292 長野県飯山市飯山1110-1 飯山市役所内　TEL：0269-62-3133　FAX：0269-62-7003　www.tabi-tabi.com

Iiyama Tabi-Tabi

飯山旅々。

選べるいいやま旅のプラン

表紙：飯山仏壇の飾金具

「飯山旅々。」とは
信州、飯山の地元密着型の旅のプランを届けるウェブサイトです。その数多ある旅を、背景にある物語とともに知ってほしいという思いから、本誌「飯山旅々。」は生まれました。登場するのは、旅のプランで会いに行ける場所や人。飯山の温もりを、紙の手触りとともにお届けします。みなさんの、旅のきっかけになりますように。

秋号／目次

1　連載　会ってかし！いいやまのかお

2　巻頭特集　「寺町の伝統文化」

3　寺町のなりたち

5　寺町さんぽ

7　寺町の手業　彫金／蒔絵／仏彫

10　お寺の楽しみ　抹茶／坐禅／御朱印

13　飯山旅々。秋冬のおすすめ旅

14　連載　いいやま　うまいもの

会ってかし！いいやまのかお

❶ 農業女子、ハーブコーディネーター
木内マミさん

「野菜とハーブでみんなをハッピーにしたい」とキラキラの笑顔で話してくれたマミさん。飯山で生まれ育ち、2年間のアメリカ留学を経て、現在、なべくら高原などで農業をしています。「外に出て、いかに自分は新鮮でおいしい野菜を食べて育ってきたか、気づかされました」。SNSで飯山の風景を発信すると、海外の友人が反応してくれるそう。「いずれは海外の方にも収穫体験をやってもらえたら」。農業を通して、世界と飯山をつなぐ架け橋になってくれることでしょう。

●道の駅 花の駅・千曲川の農産物直売所で会えます。マミさんが丹精込めて育てたおいしい野菜も手に入りますよ

聞き手・書き手　桒原英里子

「寺町の伝統文化」

朝の街に寛道さんの托鉢の声透りくる底深き声
托鉢の声聞こゆればこの町に住む安心のおのずから湧く

ふたつの歌は飯山市出身の歌人
古田十一郎によるもので
2015年に入寂された正受庵（しょうじゅ）の第十二世住職
原井寛道（かんどう）和尚を詠んだ歌です。
檀家を持たず托鉢だけで護持している正受庵。
雪のなか裸足で托鉢をする「寛道さん」の声が、その存在が
どれだけ寺町いいやまに暮らす人の心を
温かく包んでいたか、この歌からうかがえます。
正受庵をはじめ多くの寺が建ち並び
日常に寺町文化が深く染み込んだまち、いいやま。
その日常を垣間見る旅へ。

写真：西敬寺

寺町のなりたち

なぜ、飯山にはこれほどの寺があるのでしょう。
まずは、その歴史を紐解くところから。

飯山は中心市街地に20もの寺が建つ寺町です。地図を見れば一目瞭然、とりわけ西の丘陵地帯には寺院がずらりと並び、それをつなぐ小径は現在、寺巡り遊歩道として整備されています。

人口約2万人というさほど大きくないこの町に、なぜ、こんなにも寺が集中しているのでしょう。鎌倉時代に活躍し、飯山にも逗留した親鸞の熱心な布教活動の影響を受けて弟子となった地元の豪族・井上善性の存在も一因だそう。しかし、ここまでの寺町を形成するに至ったのは何より〝城下町〟飯山があったからこそなのです。

飯山城が築城されたのは450年ほど前、川中島の戦いの頃。武田勢に圧された上杉謙信が、居城である春日山城（新潟県上越市）を守る信州の砦として築城させたものです。城下町の形成とともに歴代の藩主は城下の支配を強め、多くの人々の心の安定を図るために、また、城を守るために、寺を普請していきました。飯山藩主は皆川氏、堀氏、佐久間氏…と代わっていきましたが、佐久間氏が統治した元和2（1616）年から寛永15（1638）年頃に現在の寺町の形ができあがったといわれています。

当時は今よりもさらに多い30カ寺ほどがありましたが、度重なる千曲川の氾濫による倒壊、弘化4（1847）年の善光寺地震や慶応4（1868）年の飯山戦争が引き金となった火災による焼失、昭和52（1977）年には雪による倒壊もあり、消失と再興を繰り返しました。とはいえ、明治の廃仏毀釈では厳しい沙汰もなく、20カ寺が残ることとなったのです。

今、城跡に立てば丘陵地帯に並ぶ寺が一望できたことがうかがえます。一説には、その眺めを生み出すことも、寺院建立のひとつの理由だったのではとも考えられています。

親鸞の布教もあって浄土真宗の寺が多いことが特徴ですが、寺町いやまを語るのに欠かせないのが臨済宗の正受庵（しょうじゅ）です。松代藩主・真田信之の子といわれる正受老人が修行を積んだ禅庵で、その弟子の白隠は臨済宗の中興の祖というだけあって信仰は厚く、廃仏毀釈によって飯山で数少ない廃庵となった際にも、幕末の三舟のひとり、山岡鉄舟ら熱心な禅徒によって再興を遂げ、今に至ります。全国古寺名刹百選のひとつで、長野県内では善光寺（長野市）と正受庵の2カ寺が選ばれるのみ。檀家のない寺にも関わらず、正受老人から受け継ぐその清貧な信仰心にひかれて、今でも多くの人が参拝に訪れます。

長瀬 哲 教育長（飯山市教育委員会）
飯山北高校を経て国学院大学文学部史学科。長野中央高校（現長野日大高校）を定年退職後、飯山市教育委員会へ。教育長は現在3期目。飯山の歴史のことなら長瀬先生。勉強会なども開催されています。

写真は称念寺。そのほかにも名刹が点在する飯山。次ページで各寺についてご案内しています。あわせてご覧ください

寺町さんぽ

島崎藤村の『破戒』のモデルとなった蓮華寺、歴代藩主の菩提寺など
寺を巡ればおのずと飯山の歴史が見えてきます。

忠恩寺

飯山藩主の松平家・本多家の菩提寺。現存する本堂としては飯山最古で築約300年ⓓ

真宗寺（しんしゅうじ）

島崎藤村の『破戒』に登場する蓮華寺のモデル。幼稚園を併設する境内には破戒の生原稿の碑もⓐ

称念寺

正倉院の校倉造を模して再建。庭の美しさは随一。夕刻、参拝者を導く本堂の灯りが幽玄な趣きⓔ

西敬寺（さいきょうじ）

見事な茅葺の山門の脇には親鸞と蓮如上人の碑が。上杉、武田の両氏に縁のあるめずらしい寺ですⓑ

妙専寺

第17世住職の市川達譲が信州にスキーを伝えました。参道は達譲が初めて一本杖スキーで滑ったともⓕ

正受庵

飯山藩主・松平公縁の栂や水石のほか文化財も多数。現在は若手の和尚さんが修行されていますⓒ

飯山ふるさと案内人と巡る〝雪国の小京都〟いいやま小旅行

2018年6月8日㊎～10月31日㊍

日帰り／旅行代金3500円

市内の代表的な5寺を巡るほか仏壇通りや展示試作館をガイド付きで見学。地元食材を使ったおかあちゃん自慢の昼食をどうぞ。午後は自由散策をお楽しみください。

写真：飯山ふるさと案内人の大月よし子さん

七福神めぐり
七福神めぐりの御朱印集めもできます

大聖寺
飯山藩主の堀氏・佐久間氏の菩提寺。善光寺地震を供養する黄金石地蔵があります

寺巡り遊歩道
季節の花が咲き誇る遊歩道。冬季間は利用できません

寺巡りお休み処奥信濃
金箔のトイレで有名な施設。前庭には島木赤彦の碑が建ちます（12月～冬季休業）

飯山シャンツェ
スキーのジャンプ台。平昌五輪出場の竹内択選手もここで練習を重ねました

奈良沢蓮田
一面の蓮畑が広がります。見頃は8月初旬

雲水像
飯山市出身の彫刻家小野沢健一さん作。正受庵住職故原井寛道和尚がモデルとも

七福の鐘
かつてJR飯山駅構内にあった鐘楼。7回撞くと幸せになるとか!?

雪ん子マンホール
散策途中でみつけたマンホール。一本杖スキーが飯山らしい

飯山城址公園
城から市域の西、寺の連なる丘を望む風景

西来寺
現在は保育園の2階に本堂の内陣・外陣があります

真宗寺
『破戒』の生原稿をそのまま石碑にしたもの

仁王門
明治45年、善光寺御開帳時に飯山仏師が制作した仁王像。当時は屋外だったので漆が施されました

彫金（ちょうきん）

伝統的工芸品 飯山仏壇 金具部門 伝統工芸士／信州の名工

鷲森金具／鷲森敏男さん

飯山市愛宕町 3015-2　0269-62-3724

仏壇をより華やかに演出するのが飾金具（かざりかなぐ）です。宗派によってない場合もありますが、飯山仏壇はきらびやかな飾金具が特徴です。

飾金具には細かな文様が施されていますが、これは金属をプレスしたものではなく、職人が一つひとつ手作業で打ち付ける彫金の技術によりつくられているのです。

「鏨（たがね）」（左上写真）と呼ばれる型を、銅などの金属面に金槌で打ち付け、文様を浮かび上がらせます。鏨を金属から完全に離すことなく、少しずつずらしながらカンカンとリズムを刻むように連続して打ち付けていきます。

父が金槌で鏨を打つ音を聞いて育ったという鷲森金具4代目の鷲森敏男さんは「リズムが大事。リズムが狂うと間があいてしまう」と言います。仕事があいたときにも打っていないと感覚が鈍るそうで、事も無げにやってのけているように見えますが、そこには培った熟練の技があるのです。

その技を遺憾無く発揮するために道具はとても大事。金槌の持ち手は鷲森さんの手に沿うように、長年かけて擦り減っていました。

鏨の形はさまざまで、細い線形の鏨で打つ「しべ入れ」、小さな丸を連続して打つ「魚々子（ななこ）まき」、V字の鏨を斜めに入れながら打つ「蹴彫（けりぼり）」が飯山仏壇にはよく見られます。

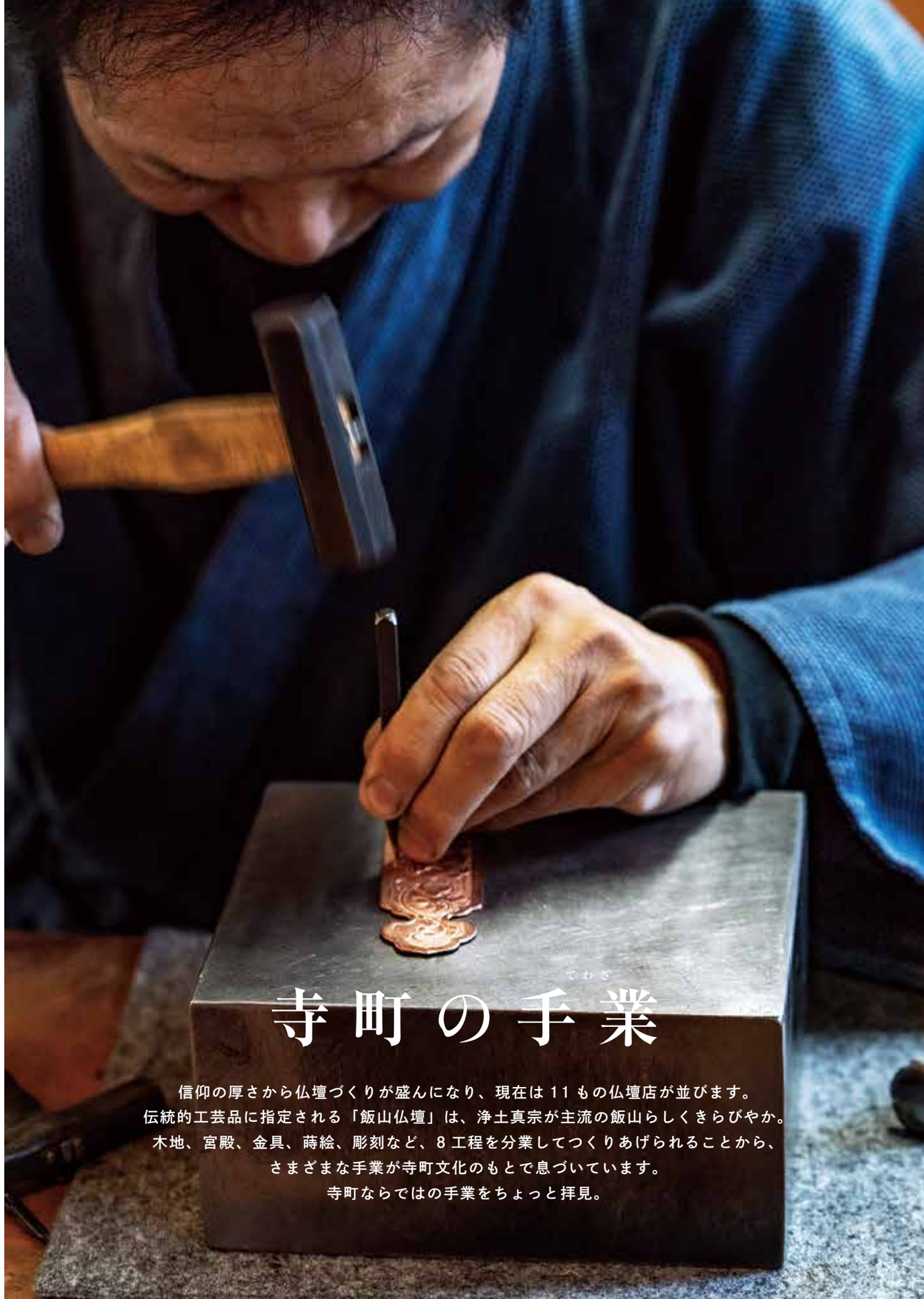
鷲森さんは、仏壇の制作以外にも体験や出張を行うほか、オリジナルのアクセサリーや帯留などもつくります（左下写真）。そのデザインは伝統技術と現代美術が融合した洗練されたもの。そこには、古き佳き手業を違う角度から知ってもらい、未来に繋げられるようにという願いが込められています。

伝統工芸士が伝授！
彫金体験で銅板のしおり作り

通年

日帰り／旅行代金 3800円
（体験内容によって変動します）

飯山仏壇の飾金具に使われる銅板を使ってしおり作り。100種以上ある鏨から好きな柄を選んでつくります。昼食付き。



寺町の手業（てわざ）

信仰の厚さから仏壇づくりが盛んになり、現在は11もの仏壇店が並びます。
伝統的工芸品に指定される「飯山仏壇」は、浄土真宗が主流の飯山らしくきらびやか。
木地、宮殿、金具、蒔絵、彫刻など、8工程を分業してつくりあげられることから、
さまざまな手業が寺町文化のもとで息づいています。
寺町ならではの手業をちょっと拝見。

お寺の楽しみ

初詣やお墓参りという非日常だけでなく
とある日常の１日をお寺で過ごしてみませんか。
心の波が鎮まるような、そんな気持ちになるはずです。

飯山なう。お寺・スイーツ・地酒
～のんびり寄り道ツアー
～ 10 月 31 日㊏の特定日
※日曜・祝日は除く
日帰り / 旅行代金 1800 円
飯山駅から高橋まゆみ人形館まで、
案内人と街並みやお寺を散策し、
スイーツ店や造り酒屋を巡ります。

抹茶

寺町とは切っても切れない、茶の湯という文化。
色濃く残る茶の湯文化はないですが、毎月第１日曜は正受庵で薄茶と和菓子をどうぞ。
鳥の声、虫の音、季節のしつらいが、心にすとんと落ちてくるひととき。

立体感を出すために胡粉（ごふん）とニカワを混ぜて盛る「胡粉盛り蒔絵」が飯山仏壇の特徴。蒔絵の魅力は「どんな素材にも施せること」と一雄さん

蒔絵（まきえ）

伝統的工芸品 飯山仏壇 蒔絵部門 伝統工芸士
藤澤蒔絵／藤澤一雄さん

飯山市野坂田741-4　0269-62-2717

蒔絵とは、漆で描いた文様に金銀粉をつけて磨くもの。藤澤蒔絵の2代目一雄さんはこの道約40年。飯山仏壇唯一の蒔絵師のため、図柄が同じにならないよう、牡丹や孔雀など伝統の図柄に加えて新しいデザインも提案します。「仏壇店が取りまとめるからお客さんに会うことがなかった。でも体験をやってみてニーズに応えなければと気づいたんです」。その思いは、宝石のほか、時計・オルゴール・万華鏡などメーカーとつくる蒔絵工芸品にもつながり、今はオーダーメイドなど人と向き合うことを大切に制作に勤しみます。

教室兼住まいの奥様のご実家はかつて４代続く仏壇店だったそうで、店頭には往時を忍ばせる看板も。展示の見学もできます

仏彫（ぶっちょう）

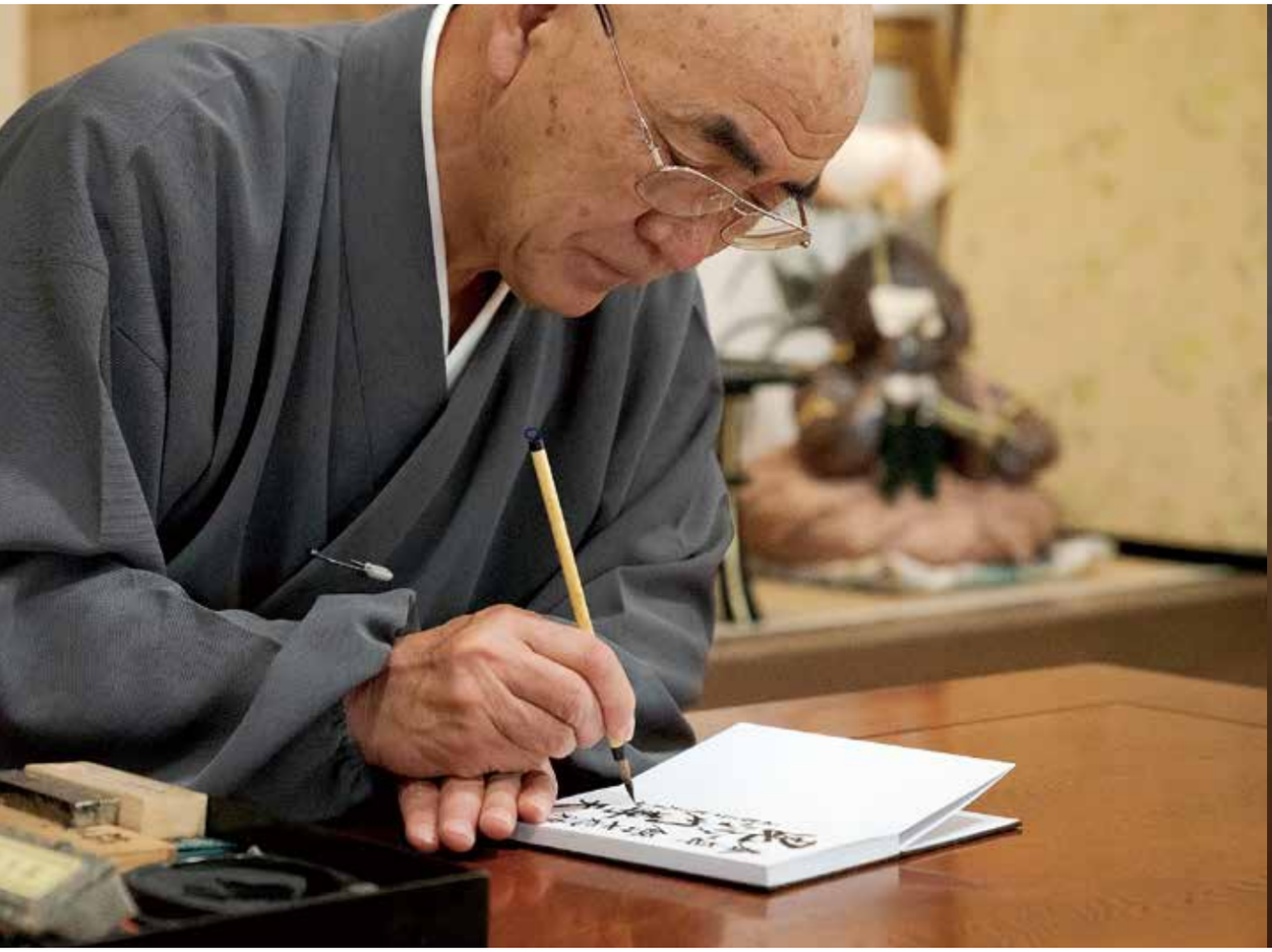
柳本慶山さん

飯山市飯山愛宕町 3029
0269-62-5451

京都の「松久宗淋佛所」で仏像に心打たれた柳本さんはその場で入門。通信教育で5年、定年後は月に1度通って京都の伝統的仏像の技術を取得しました。玉照院（長野市）の阿弥陀三尊像や観音堂（長野市篠ノ井）の十一面観音像を制作したことも。主な活動は信州飯山支部長として長野市と飯山市で開く教室。「仏像は楽しく彫らないと」と、県内外から生徒さんが通う教室はとても賑やかです。「慎重になりすぎても、欲が出過ぎてもいけない。苦い経験もすべて積み重ね。徐々にすばらしい仏像が彫れるようになります」。

※各工房への見学・体験は事前に要問合せ

いいやま七福神の「毘沙門天」の寺、
大聖寺にて



御朱印

御朱印とは、仏様や神様とのご縁を結んだ証しにいただく印。
旅のお供に御朱印帳を携えてお寺を訪ねましょう。
たまに留守のところもありますが住職さんの精緻な筆致がみものです。

常福寺の坐禅（曹洞宗）

不定期開催

10 時～ 12 時、13 時～ 16 時（時間内いつでも可、所要時間 40 分）

500 円（お茶菓子付）

申込みはお寺まで 0269-62-5772

大聖寺の坐禅（曹洞宗）

不定期開催

10 時～ 13 時（時間内いつでも可、所要時間 60 分）

500 円（お茶菓子付）

申込みはお寺まで 0269-62-2598

正受庵の坐禅（臨済宗）

4 ～ 11 月の毎月第 1 ㊏

10 時 30 分～ 11 時 30 分（受付 10 時 15 分～）

500 円

お申込みは飯山駅観光案内所 0269-62-7000（8 時 30 分 ～ 18 時 ）、10 名以下の場合は予約不要

坐禅

坐禅とは、禅宗の修行のひとつで、宗派によって考え方ややり方も少しずつ違います。
例えば臨済宗は壁を背にしますが、曹洞宗では壁を向いて行うのが一般的。
それぞれのやり方に従い、心を無にする時間です。

次号予告

飯山旅々。vol.9

「雪国の春」

豪雪地の飯山では、1年の半分を雪とともに生きることになります。だからこそ、春の訪れの、どんなにうれしいことか。張りつめた空気がほんの少し緩み、湧きたつように土が香ります。そして小道には青紫色のオオイヌノフグリが花開き、雪解けの水音が日に日に大きさを増していきます。小さな春を数えては微笑む、うららかな時間をお届けします。

9号は4月発行予定です。
* 内容は変更になる場合があります

いいやま うまいもの

❾ 栗まんじゅう

飯山の梅月といえば豆大福が人気のお店ですが、今回ご紹介するのは栗まんじゅう。おお振りの栗をうっすら白あんで覆い、皮に包んでほんの少し香ばしく焼いたもの。袋から取り出すと、まんじゅうの上部には栗を彷彿とさせる焼き目。食欲をそそります。しっかりとした甘さなので、緑茶はもちろん、コーヒーと合わせても。秋にはかりんとうまんじゅうも登場します。

梅月
飯山市南町 21-13　☎0269-62-2590
価格：1個 160円

飯山旅々。 選べるいいやま旅のプラン
vol.8/ 秋号

2018年9月発行

編集　編集室いとぐち
デザイン　OTTO & Ä

発行：一般社団法人信州いいやま観光局
〒389-2292 飯山市飯山 1110-1
飯山市役所内
TEL 0269-62-3133（平日 8:30 ～ 17:30）
FAX 0269-62-7003
www.iiyama-ouendan.net
www.facebook.com/iiyama.kanko

観光に関するお問合せ：
信越自然郷飯山駅観光案内所
TEL 0269-62-7000
8:30 ～ 18:00

写真・イラスト・文章の無断複製、複写、転載を固く禁じます。
Copyright © Shinshu-Iiyama Tourism Bureau All Rights Reserved.

飯山旅々。 選べるいいやま旅のプラン

飯山に「出会う」旅は、ウェブサイト「飯山旅々。」から

本誌でご紹介した場所や季節は、ウェブサイト「飯山旅々。」の旅のプランで会いに行けます。

～秋冬のおすすめ旅～

日帰り体験旅 釜炊きのごはんを食べ放題

薪を使って新米を釜で炊き上げ、農家民宿のお父さんとお母さんが丁寧に育てた野菜や旬の食材をつかったおかずでいただきます。栄養とボリューム満点です。実りの秋の時季（10～12月頃）はとれたての新米が味わえます。

出発日：～2019年3月31日㊐
※9月22～30日は除く
日　数：日帰り
代　金：大人4800円

かまくらランチ＆フカフカの湖上を歩くスノーシューツアー

飯山市の冬の風物詩「かまくら」でのお鍋ランチ（1日目）と、斑尾高原のフカフカの雪の上を歩くガイド付スノーシューツアー（2日目）を組み合わせたプラン。宿泊は斑尾高原のペンションで。

出発日：2019年1月26日㊏～2月27日㊌
日　数：1泊2日
代　金：大人1万8500円
小学生1万4800円

手ぶらで満喫 かまくらとスキーで雪ぽか2days

1日目は、かまくらで地元の野菜やみゆきポークを使った味噌仕立てのお鍋を。夜は戸狩温泉の民宿に宿泊し、翌日は戸狩温泉でスキー。ウェアと道具のレンタル料込みのプランです。インストラクターの手配も可能。

出発日：2019年1月25日㊎～2月28日㊍
日　数：1泊2日
代　金：2万1200円

北信州いいやま「のんびり田舎のかまくら物語」の旅

日没からライトアップされるかまくらの中で、味噌仕立ての名物「のろし鍋」を囲み夕食を楽しむ体験プラン。夕食の後は近隣の農家民宿で1泊、翌朝は地元産コシヒカリの朝食をいただきます。特産品のお土産もあります。

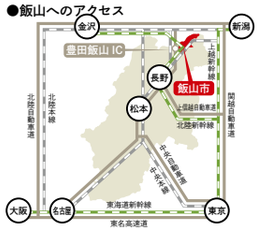
出発日：2019年1月26日㊏～2月24日㊐
日　数：1泊2日
代　金：1万2500円

旅の詳細・検索・お申し込みはこちらから

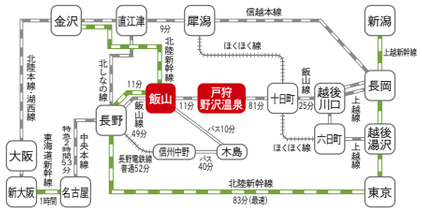
www.tabi-tabi.com

たくさんの旅のプランをご用意して、みなさまをお待ちしています。

●飯山へのアクセス



■電車で：北陸新幹線「飯山駅」下車



■クルマで：上信越自動車道豊田飯山 I.C. 下車

北陸新幹線開通で飯山が、東京・関西・北陸とぐっと近くに